

同窓会だより

卒業生総数： 29,557 人

本巣中学： 2,571 人
本巣高女： 2,592 人
高校（本巣校舎）： 24,189 人
高校（岐阜校舎）： 205 人

編集発行／岐阜県立本巣松陽高等学校同窓会事務局
(〒 501-0407 岐阜県本巣市仏生寺 859-1・TEL (058) 324-1201 FAX (058) 323-0651)



同窓会長 中 島 洋 畏（昭三十六年卒）

人生で大切なことは

「岐阜県立本巣松陽高等学

校」の金文字が

赤き門柱に輝き、松の緑は白亜の学舎を一段と引き立たせ、今も不動の『母校は若き日の心の故郷』である。母校は、一九二〇（大正九）年、旧制本巣中学校が創立されて以来、卒業生総数は二万九千五百五十七名を数え、九十三年間の歴史や伝統に培われてきた。

松樹輝く最高の環境で学んだ卒業生によって本巣松陽高等学校同窓会が組織され、「同窓会会員相互の親睦を厚くし、母校の隆盛に寄与すること」を目的として年々歳々にわたり、活動を続いている。

平成 25 年度の本部総会は昭和 58 年卒業生を幹事学年として百五十名を越える会員が一同に集い盛会であった。総理事（高橋裕司氏（医学博士））により「医療と健康問題」について極めて含蓄のある講話を拝聴することができた。また、関東支部及び関西支部でも懇親会が開催され、旧交を温める機会

を設けて頂くことができた。母校は、二〇二〇（平成三十二）年に創立百周年を迎えることになる。会員の皆様には、この記念すべき節目に向け、さらに「母校の隆盛に寄与する」為に、一層の御支援と御尽力を懇願するものである。

さて、第 22 回冬季五輪ソチ大会は十代の選手が躍動し、レジエンドが新しい伝説を作るなど、メダルの有無にかかわらず、夢の舞台「五輪」で輝いた日本選手から多くの感動が伝わってきた。格別のこと、浅田真央さんのフリーの演技四分間は感動を越え、全世界のファンを魅了したのではないだろうか。

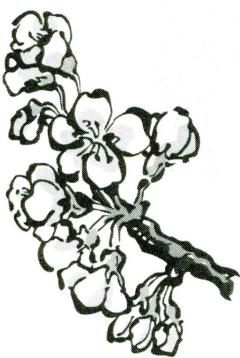
真央さんにとって、バンクーバー大会での悔し涙の銀メダルはソチ大会への強烈なバネとなつた。しかし、自ら描く思いとは裏腹に本巣高校卒業生でもあるお母さんの逝去に加え、重圧から来るスランプなど、これらを乗り越えるためには筆舌に尽くし得ぬ厳しいものがあつたに違ひない。

真央さんのお母さんが、本巣高校で学ばれていた時、私は、偶然にもお母さんのお姉さんを担任していた。當時

は、学校行事がある時は必ず校歌を歌い、母校に学ぶ生徒の精神文化のよりどころとしていた。真央さんのお母さんは「つとめてやまじ若人われら」の歌声はどのように心に響いていたことだろうか。

深く思いをする時、この「つとめてやまじ若人われら」の校歌に秘められた思いと、クーベルタン男爵の、「オリンピックで重要なことは勝つことはなく、参加することである。人生で大切なことは成功することではなく、努力することである」との名言が重なる。真央さんの笑顔には、「つらいことや苦しいこと」を乗り越えた感動との達成感が、輝く涙と素敵な笑顔となつた。

震災前には「無縁社会」という言葉が流布した。震災を契機として見直された「絆社会」であるが、どのように「絆社会」を構築していくのか課題となつた。同窓会という絆に結ばれた私たちは、多くの課題があろうともそれを乗り越え「参加すること」から始めてみたいものである。



本部総会・懇親会

高 橋 裕 司 (昭五十八年卒)

平成二十五年度岐阜県立本巣松陽

高校同窓会本部総会・懇親会が盛夏

の八月十日(土)にグランヴェール

岐山で開催されました。当番学年(昭和五十八年卒)から百三十五名が参

加し最近では最多の出席者となりま

した。

総会

西尾侑一常任理事の司会進行で開

始されました。遠山信義副会長の開会の辞に引き続き、事業報告や決算報告といった各議事が滞りなく協議されました。また中島洋晃会長(昭三十六年卒)と小見山名誉会長(学

校長)に挨拶をいただき、母校の現状を知る事ができました。天野和子副会長の閉会の辞で閉じられました。

ミニレクチャー

総会終了後、本年は新たな試みとして参加者に役立つ情報発信をミニレクチャーとして開催しました。講師は学年代表の高橋裕司が担当しました。「胃癌診療の現状—ピロリ菌除菌から内視鏡治療まで」としてピロリ菌の除菌治療から胃癌との関連、そして将来の胃癌撲滅への期待をこめた内容でした。様々な分野で活躍する同窓生のレクチャーを聞くのも同窓会ならではと思い、今後の学年でも考慮してほしい企画の一つと感じました。



懇親会

さて、会津、松葉茂樹による司会進行、高橋裕司の開会の辞で開始しました。参加いたいたい恩師の大野昭

義先生、矢島康隆先生からご挨拶をいただきました。我々との思い出話と先生方の近況も伺え、やはり恩師の有り難さを感じる瞬間でした(五十八年卒にとつての恩師である故村瀬辰美先生も、写真で担任クラスのテーブルに参加いただきました)。スクリーンで各クラス担任の先生紹介と当時のエピソードが紹介されました。ご事情で欠席された先生からのメッセージも紹介されました。

加藤慎一による乾杯で会食が開始、引き続き大道芸人さんによる演芸が行われました。歌あり踊りありの楽しいパフォーマンスでした。総会から少し緊張感ある中で始まった中は SNS を最大限に利用してきましたが、やはり人と人をつなぐのはキーボードではなく友情なんだと実感

を締めることとなりました。音源 CDがないのを彼のパフォーマンスが助けてくれました。

二次会は同じ会場でした。高校時代の懐かしい音楽とともに、卒業アルバムや個人アルバムから集められた思い出写真たちが上映されました。最後は九・十組合による三本締めでお開きとなりました。しかしまだ熱き友人同士、夜の街に繰り出し新たな思い出を作った事は当然です。



懇親会で 30 年ぶりの再会



恩師を囲んで

感しました。次回は創立百周年の同窓会で会える事を期待したいと思つています。

関東支部

支部長 田口 勉
(昭四十年卒)

平成二十五年度関東支部総会・懇親会を四月二十一日正午からアルカディア市ヶ谷(私学会館)で開催し、本部からは小見山輝明校長、中島洋晃同窓会会长、廣瀬勝己事務局長の来賓としての出席を賜りました。

総会には七十二名の参加をいたしました。開催に先立ち昨年四月から今年三月までにご逝去されました会員八名の方々のご冥福を祈り黙祷を捧げました。田口勉の司会で会の進行を行い福田支部長の挨拶、来賓の方々の祝辞、平成二十四年度の事業報告及び会計報告に続いて内藤修氏(昭和四十三年卒)より「向日性芸術ステンドグラス」の演題で講演を頂きました。ステンドグラスについては教会などでよく見る窓ガラスしかし思い浮かびませんでしたが全国の役所、学校、病院、駅等の公共施設や個人宅にも使用されているとのこと。日本では生産されてなく全てが輸入品であり、受注するのも数年前から行うとのことでした。ちなみに JR 岐阜駅にもあるとのことでしたので後日拝見してきました。

午後一時より懇親会が吉田彰(昭

(3) 平成 26 年 4 月 1 日

和四十一年卒）の司会進行で山田幸雄氏（昭和二十二年卒）の乾杯により開催されました。初めは卒業年度別に設定した各テーブルでの懇親ではありましたが、時間がたつにつれ多くの人が各テーブルに行き来して和気あいあいの場となり昔話を花を咲かせていました。恒例になりました学年別記念写真撮影（後日会員に送付）と初参加者の紹介では学生を含む八名の皆様からの一言をいたしました。その後、全員でのビンゴゲームでは会場も大いに盛り上がりました。懇親会の最後に汲田仁彦氏（昭和二十四年卒）、山田幸子氏（昭和二十四年卒）、

三十一年卒）の両名がリーダーとなり校歌を斉唱、次回総会への多数の参加呼びかけをお願いして日比野英一氏（昭和三十年卒）の閉会のあいさつで散会となりました。

昨年から実施いたしました同窓会運営での参加者の会費及び年会費について、今回も総会開催の案内状、出欠の申込書の他に都合により参加できの方々に年会費のご協力をいただきたいと申します。

この会員の方々からのご協力をいざぎまし



た。ご協力いただきました皆様に幹事一同心より感謝申し上げます。

二十六年度 関東支部 総会・懇親会

◎平成二十六年四月二十日（日）

十一時三十分～

アルカディア市ヶ谷（私学会館）
※JR、地下鉄の市ヶ谷駅下車

名古屋支部

支部長 高坂英夫
(昭三十五年卒)

本年は支部総会開催が未開催（三

年毎）の年です。これまで開催年のみに幹事会を開催していましたが、本年度より幹事会を年二回開催する事にして、一回目はグランドホテルの北京宫廷料理「涵梅舫」で幹事七名で開催しました。

総会時に催事を企画する、次回幹事会（九月十日）に企画を持ち寄る、会員の情報をできる限り把握する、

キヤッスルプラザで開催（仮予約）等を決め、親睦を深める事が出来ました。

昨年は、二〇二〇年東京オリン

ピック・パラリンピック開催が決定、またリニア新幹線のルートと各駅が決まり二〇二七年の開業を目指すことになりました。岐阜には旧国鉄時代に「田圃の中の政治駅」と言われ

た岐阜羽島駅があります。それに比較し、今回のルートはシンプルで効率の良いルートのようですが、「南アルプス」を貫く難工事が待ち構えています。しかし技術の進歩で難工事も乗り越え、技術の進歩が一段と進む事でしょう。

日本は地形から自然との共生を余儀なくされ、台風、地震、火山災害等の自然災害と向かい合ってきました。しかし自然の驚異には逆らえず、日本古来より八百万の神々にお祈りを捧げてきた風習もその起りです。またその国民性が日本の文化を育んできました。

地域では人間関係が濃く、お祭り、盆踊り、子供会等行事が盛んに開催されていました。また県人会などの交流が、学校関係では同級会、同総会も盛んでした。しかし近年は人間関係が希薄になつてきました。グローバル化は悪い事ではないが日本の文化、良いところは受け継いでいかなければならぬものであります。本巣高等学校名古屋支部も同様で総会への参加者が少くなりました。総会に多数の人に集まつて頂く為に幹事一同努力して本巣高等学校同窓会支部を盛り上げていきたいと思つています。

アベノミクス効果で明るい希望の持てる社会になる事を祈念します。

仲間

愛する 敬う 仲良くする

暖かくする 思いやる 労わる

認める 尊敬する 大切にする

今年度当番学年より

来る八月九日（土）に開催されます同窓会総会・懇親会は昭和

五十九年卒業の私たちが当番学年です。卒業して三十年が経ちました。現在同級生の皆様はそれぞれの立場でご活躍のことと思います。在学当時（今も）想像力に欠けていた私にとつて四十九歳の自分はイメージできませんでしたが、いまの自分は当時担任して頂いた後藤正樹先生の年齢を超えていることにあらためて驚きます。在学当時カッコ良かつたアノ彼は腹の出たオジサンになつていなかないか、皆の憧れだつたアノ彼女はオバタリアン（死語か）になつていなかないか、毎時間怒られたアノ先生はお元気だろうか、三十年の時の流れなるでしよう。



※関西支部は、平成二十五年度を以て閉じることとなりました。

（昭五十九年卒 木野村大二郎）

一年次生キヤリア講演会
「外交官の世界」

(昭和四十二年三月卒同窓生、
前駐スロベニア大使)
講師・石榑利光氏



生徒諸君に将来への展望と視野を広げてほしいという願いを込め、十月十日により一年次生対象のキヤリア講演会を実施しました。石榑さんは外務省入省後、チエコスロバキア、パプアニューギニア、ウイーン、ジッダ（サウジアラビア）、そして大使として赴任されたスロベニアと、海外勤務経験がとても豊富です。講演会では海外勤務をした各国の事情を交え、その体験談を聞くことができました。また、本校の大先輩として、生徒諸君に次の三つのメッセージを力強く語って下さいました。

①興味を持ったこと好きなことをどんどんする
②どこに行つてもトップ 10%に入る
③グローバルに生きてほしい
多くの生徒諸君が励ましを受けたことと思います。

平成二十六年三月卒
同窓会学年理事

平成二十五年度
部活動等の成果

文化系
書道部

第 67 回岐阜県美術展青年部
書道の部 入選 佐合 成美

入選 長谷川綾乃

運動系
バレーボール部

第 7 回岐阜県高等学校スプリング
チャレンジカップ

個人作品部門
優秀賞 戸本 好美

第 61 回岐阜県高等学校総合体育大
会兼平成 25 年度全国・東海高等学
校総合体育大会県予選大会

1 部女子 第 3 位
第 4 位

第 61 回岐阜県高等学校総合体育大
会兼平成 25 年度全国・東海高等学
校総合体育大会県予選大会

第 4 位

第 25 年度天皇杯・皇后杯全日本
バレーボール選手権大会

第 4 位

第 56 回中部日本吹奏楽コンクール
岐阜県大会

第 3 位

箏曲部

第 82 回岐阜県高等学校連合音楽会
器楽部門 金賞

優秀賞 戸本 好美

吹奏楽部

第 56 回中部日本吹奏楽コンクール
岐阜県大会

銀賞

ソフトボール部

第 61 回岐阜県高校総合体育大会兼
平成 25 年度全国・東海高校総合体
育大会県予選大会

第 3 位

第 21 回岐阜県高等学校選手権ソフ
トボール大会

第 3 位

岐阜県高等学校新人大会 第 3 位

第 61 回岐阜県高校総合体育大会兼
平成 25 年度全国・東海高校総合体
育大会県予選大会

第 3 位

その他
文芸部

平成 25 年度岐阜県高等学校文化部
活動振興費補助金指定

平成 25 年度岐阜県高等学校文化部
活動振興費補助金指定

会員の皆様からの寄付		(口早巴)
若原 忠義	(昭十七卒)	二十口
井上 三男	(昭十七卒)	二口
山田 美代子	(昭十七卒)	五口
中島 洋晃	(昭三十六卒)	十二口
遠山 信義	(昭四十卒)	五口
神谷 保夫	(昭四十卒)	十口

大西 隆信	(昭四十一卒)	二口
福田 深子	(昭四十三卒)	三口
長屋 秀眼	(昭五十卒)	二口
坂東真樹子、間野亨子、小林義郎、 本間一哉、太田直美他		
四十名より		九十五口

